

令和6年度天皇杯受賞者受賞理由概要 水産部門

そや、頭を使ってより良うしたろ！—大型施設で生産効率UP—

○氏名又は名称 中辻 清貴

○所 在 地 北海道利尻郡利尻町

○出 品 財 経営（漁業経営改善）

○受賞理由

・地域の概要

利尻町は、北海道最北端の稚内から海上52kmを隔てた利尻島の南西部に位置している。人口の約2割が漁業・水産業に従事しており、また令和5年の観光入込客数は11万人とされ、この二つが利尻町の基幹産業と言える。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

中辻氏が代表を務める中辻漁業部では現在主にコンブ養殖業に従事するが、その他の沿岸漁業も営んでおり、生産高の割合としては、コンブ養殖が81.8%、ウニ漁業が12.7%、ナマコ漁業が5.5%（令和4年）となっている。

・受賞者の特色

（1）室内での機械乾燥の導入

利尻島でのコンブ乾燥は天日干しを基本とするが、中辻氏は安定した生産を目指すため大型乾燥施設を建設し、室内での機械乾燥を導入した。機械乾燥の場合は天候に左右されず作業できるため、収穫作業期間の明確化による作業人員の安定確保や早期の収穫終了、鳥のフン害から逃れることができる。

（2）大型乾燥施設での作業による効果

① 従来の作業を見直すことによって水揚げしたコンブの刈取り作業及びコンブを乾燥させるために並べる作業の負担軽減、乾燥の省スペース化、行程の単純化により収穫作業全体の効率が改善された。このことにより、アルバイト等、慣れていない者でも作業しやすい体制が作られた。

② 初期投資の費用は約2,000万円かかっているが、天日乾燥に比べて人件費が大幅に減ったことで、年間約60万円のランニングコスト削減となった。

③ 室内であれば天候にとらわれない作業ができるため、収穫の早期終了が可能となり、7月半ば頃から増加する付着生物の被害を受けにくくすることで低品質ランクのコンブが導入前の約6割に減少し、出荷物の品質の向上に繋がった。

・普及性と今後の発展方向

不安定な天候や、付着生物の被害拡大状況を鑑みると、機械乾燥の導入を検討している経営体も少なくないと予想される。スケールメリットを得られない場合は高コストになるため、導入は大規模な漁家に限られる可能性はあるが、中辻漁業部では見学や視察も受け入れている。今後機械乾燥を導入する経営体へ有用な情報共有が行われることで、当該地域を中心に技術普及の進展が期待される。